

マイマイガ <生態など> <被害> <防除> <文献>

春から初夏にカラマツや広葉樹の葉を食べるケムシ（幼虫）。最大長約60mm。背中にコブが二列に並び、前の3対は青く、後の6対は赤い。頭部は茶～灰色、黒い八の字の斑紋がある。

カラマツやカンバの林などでしばしば多発し、葉を食いつくすと周囲の様々な樹木や草本を食害する。庭や公園などで発生することもある。春に卵から孵化した幼虫は風に乗って飛び、家屋に侵入することがある。幼虫に触ると人によっては発疹がでる。



1. 中齢幼虫，体長22mm。1993/6/20。新得町，ミズナラ。



2. 終齢幼虫。1988/7/23。美唄市，カラマツ。



3. 成虫（上—雌，下—雄），1973/8/4，上富良野町。



4. 産卵，1986/8。美唄市。

【学名】 *Lymantria dispar praetelea*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，ドクガ科 (Lymantriidae)

【分布】 北海道；千島，シベリア南東部。ユーラシアに広く分布するが、多数の亜種に分けられている。

【生態】 [戻る](#)

卵越冬。翌春の5月に卵から幼虫が孵化する。孵化幼虫は天気の良い暖かな日に樹上に登り新葉を食べるか、糸をはいてぶら下がり風に乗って分散する。幼虫は夜間に葉を食べ、日中は幹などで休息していることが多い。7月頃に枝上で粗く糸を張って蛹になる。蛹は8月に成虫になる。雌成虫は木の幹や電柱などに卵を500個程度まとめて産み、うす茶色の鱗粉で覆う。雌成虫は市街地の照明にしばしば飛来する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
卵（越冬）	+++	+++	+…			…++	+++	+++	+++
幼虫（摂食）			…■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ …				
蛹					…◇◇	◇…			
成虫					…○	○○…			

【被害】 [戻る](#)

ほぼ10年間隔で多発する。被害はカラマツやカンバの林が多い。普通1～3年で終息に向かう。主な終息要因としてウィルス病や昆虫疫病菌の流行が観察されている（写真5）。

幼虫に毒性は知られていないが、触ると皮膚に体毛が刺さるので人によっては発疹がでる。孵化幼虫は風に乗って分散するため人と接触しやすい（写真6）。多発時には雌成虫が市街地などの照明に多数飛来し、その周囲で産卵するため、翌春に市街地で多数の幼虫が孵化する。孵化幼虫が家屋に侵入したり、農作物を出荷する際、中に混入した例がある。

カラマツやカンバなど落葉樹はすべての葉を食害されても、2～3週間ほどすれば新しい葉を再生するため枯れることはほとんどない。カラマツの被害では立地条件が非常に悪い林で枯死木の発生が1例記録されているにすぎない。カンバでは枝枯れの発生が1例記録されているだけである。

もっとも、葉を食害された樹木は一時的に衰弱する。カラマツはマイマイガに食害された後にカラマツヤツバキクイムシの被害を受け枯れることがときどきある。食葉性害虫が発生しているカラマツ林ではカラマツヤツバキクイムシの被害に注意が必要である。

マイマイガの幼虫が多発した林では、その近くにある常緑針葉樹、農作物、草本などに食害が及ぶことがある。常緑針葉樹は落葉樹のように葉をすぐに再生できないため、多くの葉を失うと枯死する。



5. ウィルス病で死亡したマイマイガ。1975/7。
東神楽町，カラマツ幹上。



6. 孵化幼虫。糸をはいてぶら下がり風に乗って分散。
1986/8. 美唄市。

【防除】戻る

市街地やその近くで多発した場合は衛生害虫として注意し，地域の関係機関と連携して対処するのが望ましい。

1. 夏に市街地の照明に成虫が多数集まり卵塊が目立つ場合は以下の手順で対応する。

2. 市街地では卵塊をできるかぎり取り除く。

3. 翌5月に孵化幼虫が飛散するので，その前に住民らに注意を促す。

網戸をして屋内への侵入を防ぐ。外に干した洗濯物を取り込んだり，農作物を出荷する際には，5mmほどの黒い毛虫がついてないか注意する。

4. 被害は幼虫期の病気の流行により終わる（写真5）。6～7月に幼虫の死亡状況を数力所で定期的に調査する。7月に入っても幼虫の死亡がほとんどみられな異場合は，引き続き注意する（1に戻る）。

死亡率が9割以上に達したら，終息に向かっていることを住民らに伝える。

農薬による駆除が必要と判断される場合はマイマイガ用の農薬を用いる。適用範囲が広いものとして，樹木用のDEP乳剤，一般樹木（林木）用のMEP乳剤，樹木（庭木，林木）用のエトフェンプロックス乳剤などがある。農薬は取扱説明書に従って使用し，散布にあたっては通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

林地のカラマツやカンバなど落葉樹はマイマイガの幼虫の食害で枯れることはほとんどないため，防除は普通必要とされない。ただし，葉の食害により樹勢が一時的に低下するので，環境を変えるような施業（強度の間伐や隣接林分の皆伐など）を避け，カラマツヤツバキクイムシなど穿孔虫の二次被害が発生しないようにする（詳細はカラマツヤツバキクイムシを参照）。

市街地への成虫飛来を減少させるには，街灯などの照明を夜行性昆虫類の誘因力が弱いナトリウムランプと交換する方法が考えられる。

【文献】 [戻る](#)

- *1978. 東浦康友, 上条一昭. マイマイガ大発生終息過程の死亡要因. 北海道林業試験場報告, 15: 9-16.
1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).
- *1989. 東浦康友. マイマイガ幼虫のふ化日と分散時期の予想法. 光珠内季報, 74: 19-24.
- *1991. 東浦康友. マイマイガの大発生を抑える流行病. 光珠内季報, 82: 14-17.
1994. 古田公人. マイマイガ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 279-282. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 天敵, 防除など)

作成中

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マイマイガ dokuga/maimaiga/
kaisetu.htm

「概要」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/17.

「詳細」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/17
. yochu1.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993.
yochu2.JPG

「写真2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1988.
seichu1.JPG

「写真3」 水井憲雄, 北海道立林業試験場, 1973.
sanran1.JPG

「写真4」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1986.
tenteki1.JPG

「写真5」 東浦康友, 北海道立林業試験場, 1975.
yochu0.JPG

「写真6」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1986.